

関西大学工学部 正会員 三浦浩之  
 関西大学工学部 正会員 和田安彦  
 関西大学大学院 学生員 ○平野久史

### 1. はじめに

近年、自然環境に対する社会的関心から親水性や自然性を考慮した水辺空間に対する要請が高まりつつある。本研究では、地域特性に則した親水空間の水質改善策を検討するため、水環境の悪化が著しかった市街地内ため池を選定し、親水性や自然性への配慮と水質改善策等の水環境整備に関する利用者意識調査を行った。この調査結果を基に、利用者の立場から見た市街地における親水空間に関する考察を行い、今後求められる親水空間整備の方向性を検討した。

### 2. 調査対象池

調査対象池は、親水空間としての整備が実施された市街地のため池を選定した(写真-1)。整備以前は富栄養化現象により悪臭や景観悪化が顕著であったため、池水を循環させる攪拌式水流機の導入、地下水を水源とする豊富な水量の確保等の水質改善策がとられている。また水質浄化を目的とした水生植物の植栽や自然石護岸の使用、あるいは水辺への近づきやすさを考慮した休憩所や棧敷等の設置による自然性や親水性を高める配慮がなされている。

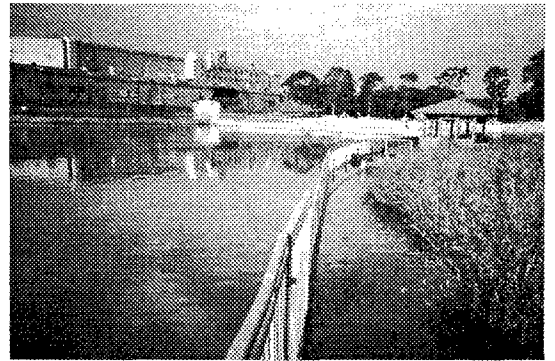


写真-1 対象池概要

### 3. 利用状況および利用者による評価

公園の利用者に対して、利用目的、利用頻度、整備に対する評価等をアンケートにより調査した。

アンケート回答者は計 86 名で、その年代構成は 10 代 34%, 20 代 22%, 30 代 18%, 40 代以上が 26% であった。

対象池公園内施設の利用状況を図-1 に示す。水深 10cm 程度の徒渉池、直接水にふれることができる広場、水生植物園等の親水施設は、公園を構成する主要施設の中ではあまり利用されていない。

図-2 は対象池公園内施設の必要性に関する利用者側の評価を割合の高かった順に並べたものである。水生植物、自然石の護岸、徒渉池等の「親水」に関わる項目は、一般の都市公園においても見られる施設と比較すると下位に位置している。特に「浮き島」についてはほぼ 3 分の 1 の回答者が不必要であると回答した。

整備で大きく変わった池の周囲の「鉄柵」の設置、水上の「浮き島」の設置、「水生植物」の植栽について年代別に利用者の意識を検討した。

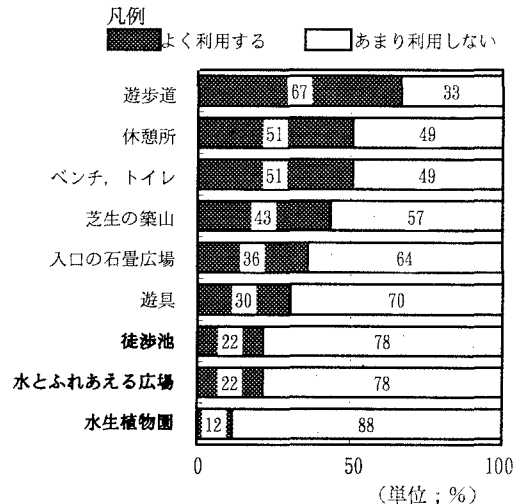


図-1 対象池公園内施設・設備の利用状況

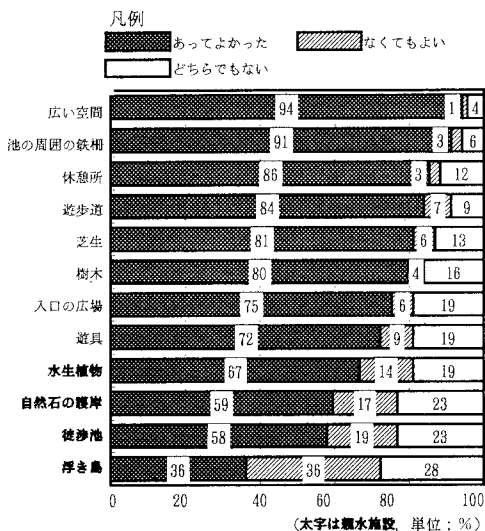


図-2 対象池公園内施設・設備に対する利用者の評価

池の周囲の「鉄柵」は景観との調和のために材質や形状に工夫がされている。その「鉄柵」に対する意識を図-3 に示す。回答者のいずれの年代においても、景観との調和、人工的な感じよりも安全性に対する項目に評価が集中した。

「浮き島」は攪拌式水流機の上に、自然性を演出する目的で設置されている。30代を境にして若い世代には人工的なものとして捉えられているが、大きさ、形状についてはそれほど関心は高くなかった(図-4)。

「水生植物」に対する意識を図-5 に示す。自然が感じられるという評価がいずれの年代でも見られる。10代、20代の若い年代では水生植物を自然として受け入れているのに対し、30代では植栽面積に対する要望、40代以上では多すぎる、雰囲気と合っていないといった項目にも評価が集中し、年代で評価に違いが見られる。

#### 4. おわりに

本研究は、親水空間として整備された市街地のため池を選定し、水環境整備に関する利用者意識調査を行った。調査結果により、①対象池公園内の親水施設はあまり利用されていない、②対象池公園内の親水施設に対する評価について一般的な施設と比較すると低い、③年代によって意識の違いが見られ、対象池公園内施設に対する評価に違いがある、ということが分かった。今後は、年代別の利用目的をふまえ、それぞれの年代による評価の違いの要因を検討していく必要がある。

#### 【参考文献】

- 斎藤治子：都市における親水公園の実地調査から、水質汚濁研究，Vol. 14，No. 1，pp. 21-27，1991。  
坂口哲：大川端リバーシティ 21 における水辺の評価について，雨水技術資料，Vol. 6，pp. 101-106，1992。

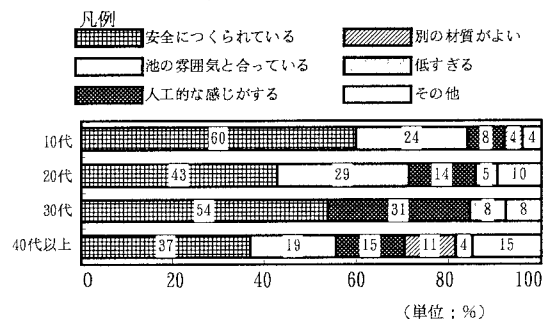


図-3 池の周囲の「鉄柵」に対する利用者の意識(複数回答)

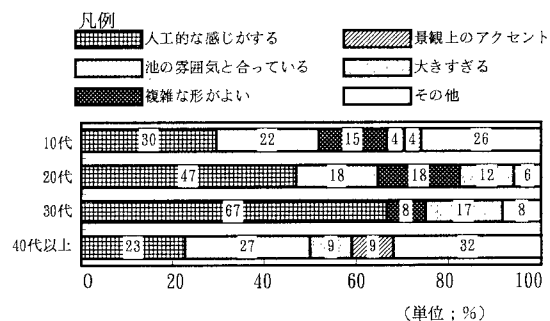


図-4 「浮き島」に対する利用者の意識(複数回答)

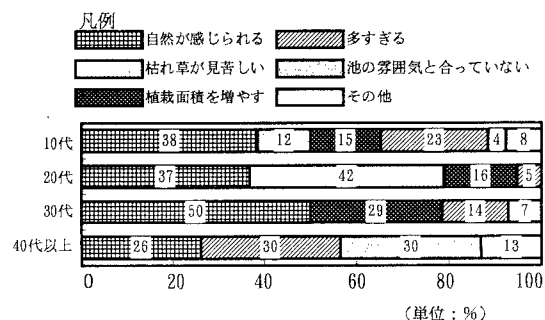


図-5 「水生植物」に対する利用者の意識(複数回答)